

# 札幌市こども人形劇場こぐま座 令和2年度管理業務報告書

## 1 管理業務の実施状況

項目	実施状況	評価・反省												
<b>1. 管理の基準</b>														
(1)開館時間及び休館日	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">開館時間</td> <td>午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>休館日</td> <td>(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>開館日数</td> <td>218日</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>休館日数</td> <td>147日 ※うち臨時休館103日 (臨時休館:コロナウィルス感染拡大防止に伴う休館61日、舞台改修工事に伴う休館42日)</td> </tr> </table>	1	開館時間	午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで	2	休館日	(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで	3	開館日数	218日	4	休館日数	147日 ※うち臨時休館103日 (臨時休館:コロナウィルス感染拡大防止に伴う休館61日、舞台改修工事に伴う休館42日)	/
1	開館時間	午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで												
2	休館日	(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで												
3	開館日数	218日												
4	休館日数	147日 ※うち臨時休館103日 (臨時休館:コロナウィルス感染拡大防止に伴う休館61日、舞台改修工事に伴う休館42日)												
(2)施設使用の承認について	・札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、実施した。													
(3)利用の制限に関する事項	・該当事例なし。													
(4)札幌市個人情報保護条例の適用について	・個人情報の取り扱いについては、札幌市個人情報保護条例に基づき適正に処理を行った。また、個人情報の開示の要望はなし。													
(5)札幌市情報公開条例の適用について	・該当事例なし。													
(6)札幌市行政手続条例の適用について	・札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行った。													
(7)札幌市オンブズマン条例の適用について	・該当事例なし。													
(8)札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の適用について	・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例に基づき、適正に処理を行った。該当照会実績なし。 (使用承認申請書での確認、協定に関連する契約業者の確認)													
(9)障害者差別解消法の適用について	・障害者差別解消法を踏まえた、札幌市の対応方針及び接遇要領に基づき、合理的配慮等の利用者対応を行った。													
<b>2. 統括管理業務</b>														
(1)管理運営業務の基本方針の策定	『未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり』 札幌市こども人形劇場こぐま座は、「人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」を目的に設置された施設である。 全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇等に親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。	・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい温かな雰囲気劇場作りに努めた。												
(2)平等利用の確保に向けた考え方と取組	人形劇や演劇等、子どもたちのために舞台表現活動を行う団体に対しては、幅広く受け入れ優れた作品を安価で上演できることを劇場運営の基本方針とした。劇場職員は、観客である子どもとその家族を温かく迎え入れ、親しみやすい雰囲気を作るとともに、上演する団体の支援者となることに努めた。													
(3)地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進	環境行動マニュアルに基づき、環境に意識し業務を推進した。観客に無理のない範囲で冷暖房の節約を行い、電気量の節電など環境に配慮した取り組みを行った。	・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道等)の節約に努め、施設運営を行った。												

(4)管理運営組織の確立

①責任者の配置、組織整備  
 ・統括責任者1名配置。  
 ・事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。

②従事者の確保・配置  
 ・職員の配置体制

統括責任者	1名	統括責任者(やまびこ座・こぐま座兼務)
職務代理者	1名	こぐま座の管理運営責任者(中島児童会館兼務)
事業指導担当者	1名	/
舞台技術担当者	1名	
事業担当補助者	1名	
計	5名	

③人材の育成

(1)派遣研修(劇場運営関係)  
 全国、海外人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門知識向上に努めた。

- ・第12回砂川人形劇フェスティバル  
 3月20日(土)～21日(日) 職員1名
- ・「こどものまなび塾」参加  
 10月1日(木)～4日(日) 職員4名  
 10月24日(土)～25日(日) 職員3名
- ・「こども文化セミナー」参加  
 3月6日(土) 職員4名
- ・児童文化関連施設視察(愛知県)  
 10/24(土)～26(月) 職員1名

(2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修

- ・職員研修(劇場の理解等)  
 4月9日(木)・16日(木) 職員4名
- ・舞台照明研修  
 4月3日(金)～4日(土) 職員3名
- ・舞台音響研修  
 4月5日(日)・8日(水) 職員2名
- ・人形劇ゼミナール(人形劇指導研修)  
 4月23日(木)～7月23日 職員3名
- ・将来構想/広報戦略プロジェクト  
 通年 職員3名

(3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修

- ・階層別研修
- ・目標管理制度
- ・情報リテラシー研修
- ・ハラスメント研修

・管理業務を適切に行うため、人形劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し組織だった運営を行った。

・劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者に関わるべく多様な場で研鑽に努めた。

・2つのテーマにおける課題の洗い出しと業務改善を行うプロジェクトにより、劇場職員としての意識向上と、人材育成の両面から成果に結びつけることができました。

・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。

(5)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

・職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。  
 ・職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。  
 ・法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。  
 ・職員の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入。また、必要に応じて適正に届出等を行った。  
 ・常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。  
 ・正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。  
 ・労災保険加入と、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。  
 ・法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。  
 ・新型コロナウイルス感染症の対策として、事務室への飛沫防止アクリル板の設置や定期的な消毒、公演対応での防護用品の使用で感染リスク低減に向けた環境を整備した。

・労働関係法令に関する理解を深めるとともに、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。

・新型コロナウイルス対応では、職場環境の整備と、可能な限り出勤者を減らす取組みにより、安心して仕事ができるよう努めた。

(6)管理水準の維持向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団ネットワークシステムを活用した情報共有や都度ごとの担当者会議、定例的な職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。</li> <li>・日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行った。</li> <li>・職員によるプロジェクトを組織し、職員一人ひとりが業務の質を上げ、先見的な方向性を打ち出せる人材の育成を目指した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。</li> </ul>																		
(7)第三者に対する委託の方針	<p>第三者に対する委託業務の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下記の業務について、第三者に対する業務委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="402 407 1114 542"> <thead> <tr> <th>業務名</th> <th>契約業者名</th> <th>実施月</th> <th>契約方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 舞台設備 (吊物・照明・音響) 保守点検業務</td> <td>株式会社 池下電設</td> <td>3月</td> <td>随意契約 (特命)</td> </tr> </tbody> </table>	業務名	契約業者名	実施月	契約方法	1 舞台設備 (吊物・照明・音響) 保守点検業務	株式会社 池下電設	3月	随意契約 (特命)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の良好な維持管理のため、年1回の舞台設備保守点検業務を実施。</li> </ul>										
業務名	契約業者名	実施月	契約方法																	
1 舞台設備 (吊物・照明・音響) 保守点検業務	株式会社 池下電設	3月	随意契約 (特命)																	
(8)札幌市及び関係機関との連絡調整等	<table border="1" data-bbox="402 600 1114 1281"> <thead> <tr> <th>開催回</th> <th>開催日</th> <th>協議・報告内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運営協議会 (第1回)</td> <td>(書面開催)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策について</li> <li>・令和2年度事業報告(上半期)</li> <li>※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から書面による報告と意見集約を実施。(当初予定11月12日)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>利用者説明会</td> <td>3月25日 (資料送付)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの対応について</li> <li>・連絡事項、協力依頼</li> <li>※コロナウイルス感染拡大防止のため集合型での実施を取りやめ、資料送付による対応とした。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>業務・財務検査</td> <td>3月11日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務検査</li> <li>・財務検査</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>運営協議会 (第2回)</td> <td>3月4日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度事業報告(下半期)</li> <li>・アンケート結果及びセルフモニタリング報告(下半期)</li> <li>・事業や運営についての意見交換</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>＜協議会メンバー＞札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会代表、小樽商科大学特認名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市子ども人形劇場館長</p> <table border="1" data-bbox="402 1317 1114 1473"> <tr> <td>札幌劇場連絡会</td> <td>通年</td> <td>札幌市内の劇場の発展及び社会的地位の向上を図り、舞台芸術の振興と舞台芸術による地域振興を目的とする団体に参加し、定例会議の参加による情報交換と協働事業を実施した。</td> </tr> </table> <p>＜連絡会構成＞シアターZOO、演劇専用劇場BLOCH、札幌市教育文化会館、コンカリーニョ、ターミナルプラザことパトス、サンピアザ劇場、cube garden、イベントスペースEDiT、やまびこ座、こぐま座、(札幌市文化振興課)</p>	開催回	開催日	協議・報告内容	運営協議会 (第1回)	(書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策について</li> <li>・令和2年度事業報告(上半期)</li> <li>※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から書面による報告と意見集約を実施。(当初予定11月12日)</li> </ul>	利用者説明会	3月25日 (資料送付)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの対応について</li> <li>・連絡事項、協力依頼</li> <li>※コロナウイルス感染拡大防止のため集合型での実施を取りやめ、資料送付による対応とした。</li> </ul>	業務・財務検査	3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務検査</li> <li>・財務検査</li> </ul>	運営協議会 (第2回)	3月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度事業報告(下半期)</li> <li>・アンケート結果及びセルフモニタリング報告(下半期)</li> <li>・事業や運営についての意見交換</li> </ul>	札幌劇場連絡会	通年	札幌市内の劇場の発展及び社会的地位の向上を図り、舞台芸術の振興と舞台芸術による地域振興を目的とする団体に参加し、定例会議の参加による情報交換と協働事業を実施した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営協議会を設置し、委員の方へ事業実施状況等の報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。</li> <li>・利用者説明会は、コロナウイルス感染拡大防止のため中止としたが、施設からの連絡やコロナウイルス感染予防策等の状況を資料として郵送した。</li> <li>・札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。</li> <li>・劇場連絡会に参加し、市内の他劇場との情報交換の場となった。特に今年度は新型コロナウイルス対応についての情報交換により劇場運営に役立てることができた。</li> </ul>
開催回	開催日	協議・報告内容																		
運営協議会 (第1回)	(書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス対策について</li> <li>・令和2年度事業報告(上半期)</li> <li>※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から書面による報告と意見集約を実施。(当初予定11月12日)</li> </ul>																		
利用者説明会	3月25日 (資料送付)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの対応について</li> <li>・連絡事項、協力依頼</li> <li>※コロナウイルス感染拡大防止のため集合型での実施を取りやめ、資料送付による対応とした。</li> </ul>																		
業務・財務検査	3月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務検査</li> <li>・財務検査</li> </ul>																		
運営協議会 (第2回)	3月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度事業報告(下半期)</li> <li>・アンケート結果及びセルフモニタリング報告(下半期)</li> <li>・事業や運営についての意見交換</li> </ul>																		
札幌劇場連絡会	通年	札幌市内の劇場の発展及び社会的地位の向上を図り、舞台芸術の振興と舞台芸術による地域振興を目的とする団体に参加し、定例会議の参加による情報交換と協働事業を実施した。																		
(9)財務(資金管理、現金の適正管理)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施している。</li> <li>・金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規程及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。</li> <li>・当財団における内部監査の実施や、公認会計士による外部監査を導入している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現金の取扱いについては、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めている。</li> </ul>																		
(10)要望・苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心掛けた。</li> <li>・意見箱を設置し、日常的に市民の声を聞くことができる環境を整えた。</li> <li>(令和2年度については、意見箱への要望・苦情は無し。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接いただいたご意見については、職員間で内容を共有し、原因分析を即座に行い苦情の低減に努めた。</li> </ul>																		

(11)記録・モニタリング・報告・評価

・業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。  
 (業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿等)  
 ・劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。  
 ※アンケート調査結果の詳細は「2 アンケートのまとめ」参照

・セルフモニタリングにより自己評価を行い、今後の事業運営に繋げた。

3. 施設、設備の維持に関する管理

(1)維持管理業

・利用者等の安全確保を第一に優先し、市民サービスの向上を図った。また維持管理計画の下、日常点検を行い対応を図った。

		実施状況	実施日
1	定期清掃	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の再委託業務により実施した。 契約業者: 太洋美装(株)	通年
2	日常清掃	職員が対応。また、公演時には劇団が協力。	通年

② 警備業務

		実施状況	実施日
1		中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の再委託業務により実施した。 契約業者: 北幹警備保障(株)	通年

③ 修繕工事の実施状況

		修繕内容	修繕日
1		こごま座手摺修繕	7月31日
2		こども人形劇場排煙窓修理	12月17日
3		こごま座網戸修繕	2月2日
4		舞台袖幕、大黒幕修繕	3月3日

④ 備品管理  
《購入備品》

	物品名(帰属)	数量	購入年月日	金額
1	冷蔵庫(札幌市)	1	6月11日	57,310
2	加湿器(財団)	3	2月23日	213,840
3	スピーカー(財団)	2	2月25日	91,520
4	タブレット(財団)	2	3月22日	218,460
5	レターケース(札幌市)	1	3月20日	27,720
6	開き足(財団)	24	3月29日	906,400

⑤ 駐車場管理  
・劇団等の施設利用者に対し、車両進入許可証を発行し、公園内での事故等に十分注意し、関係者以外の進入を防げるよう努めた。

⑥ 外構緑地管理、除雪作業  
・敷地内の植木、除雪については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。

・日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行った。

・日頃より館内の見回り、点検を行い、破損や故障等は、速やかに修理した。

・市民の利用に支障が生じることのないよう、日頃より点検、清掃等を行った。  
 ・故障の著しい備品については、新規購入し、維持管理に努めた。

・駐車場を利用する劇団利用者に対して、安全確認および注意を促すことで、公園内の安全確保に努めた。

・中島児童会館及び中島公園管理事務所と連携し、日頃より適切な維持管理を行っている。特に問題なし。

(2)防災業務

① 防災計画と組織  
・防災計画を定め、自衛消防組織を設置し、有事の際の迅速な対応に備えた。

② 防災訓練の実施  
・中島児童会館と、2施設共同の防災計画・緊急連絡体制を定めている。  
 避難訓練実施 ①8/8(参加人数 24名)  
 ②3/26(参加人数 17名)

③ 状況に応じた情報収集及び事故発生時の対応  
・関係機関からの情報収集と館内利用者への正しい情報提供に備え、事故対応に努めている。  
 ・事故防止に備えた日常的な訓練等による危機管理体制を整え、賠償保険にも加入し不測の事態に備えた。

・災害や利用者の傷病に対する対応については、常日頃より気を配り、突発的な事態にも対応できるよう事前の準備を心掛けている。

#### 4. 事業の計画及び実施に関する業務

(1)児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務

今年度はコロナ禍により休館措置や収容人数の制限、感染対策を施した上での事業実施等、これまでの常識が通用しない事態となった。そのため、今年度計画していた事業が大幅に中止、延期、変更となり、事業計画の再考を迫られる事態となった。その中で創意工夫を凝らしながら、できる限りのことを実施した。

##### 【公演事業】

・5月末までの休館措置のため、春休みやゴールデンウィークの特別企画、一般公演が中止。国のガイドラインを基に感染対策の徹底を図り、7月の屋外公演「あおぞらキッズシアター」を皮切りに、8月から劇場公演を再開させた。7月、8月の公演は、劇団の精神的負担を考慮し、劇場主催「がんばフェス～がんばろう北海道！がんばろう子どもたち！」と銘打ち、こぐま座、やまびこ座が主導しての公演を企画。24回公演、967名の観客の方々にお越しいただくことができた。しかしながら、11月、12月の舞台改修工事も重なり、目標値であった200回公演には遠く届かなかった。(実績104回)また、観客数も50%制限の中での公演実施となり、昨年度比としては70%減となった。また、特別公演や招へい公演、冬の野外人形劇場等が軒並み中止。しかし、9月にプロデュース人形劇のニセコ公演や地元専門劇団の特別公演、そして何より地元の人形劇団の協力によって、公演事業を継続できたことは特筆に値する。さらに、中島公園での屋外公演が定例化できたことは新スタイルとして期待できる。

##### 【講座事業】

・初心者のための人形劇講座は中止。しかしながら、経験者講座に関しては、会場をやまびこ座に一本化し、経験者のための人形劇クリニックとして新たな講座スタイルを確立した。

##### 【子どもの舞台表現活動の推進】

・「こぐま座こども人形劇団」「パペットユーススクール」ともに夏休み明けからの実施となった。しかしながらこの状況下で、新作人形劇を創作できたことは、非常に意味あるものであった。11月にやまびこ座で実施した「札幌人形劇祭」にて発表できたことも一つの成果の現れである。また、児童会館人形劇クラブの指導(全5館)や児童会館おでかけ人形劇(計23館、934名観劇、劇団延べ43名参加)といった劇場を飛び出した文化発信事業の充実が図られたことは有意義であった。

##### 【地域との共生および関係機関との連携】

・砂川人形劇指導や劇場連絡会との取り組みなど、規模は縮小されたものの継続実施できた。  
・劇場の公演活動の充実や劇団支援、地域連携の活性化を目的として協賛金を募る「事業サポーター制度」を実施し、11件の個人協賛と、3件の企業協賛を得ることができた。

##### 【社会貢献事業の取り組み】

・継続してきた福島県への継続支援活動はコロナ禍により往来は中止。しかしながらリモートでの高校生への人形劇指導や札幌と福島の人形浄瑠璃の子どもたち同士の交流など、新たな取り組みが行われた。

##### 【展示室の活用およびその他】

・「MASOBO」事業の一環として657美術館を活用した絵本展を年3回実施。

##### 【中島児童会館との一体運営の取り組み】

・毎年7月に実施していた中島児童会館との連携事業「かもくま祭」は規模を縮小し、さらに9月へ延期しての実施とした。規模は縮小されたものの、市内の他の文化イベントが軒並み中止となる中で開催を喜ぶ声も多く聞かれた。また、MASOBO事業やボランティア事業も秋以降、継続した実施ができたことは成果として挙げられる。

・今年度は、コロナ禍という不測の事態によって、これまで当たり前と考えてきたことに対する再考を余儀なくされた。しかしながら、文化芸術の意味や子ども文化施設としての役割を、改めて劇団とともに考える機会となったことは、単なる災禍で終わらせないという前向きな姿勢を打ち出せたと感じている。

・公演回数、上演日数等、すべての目標数値には遠く及ばなかった。しかしながら、7月以降、この状況下で諦めずに継続した形での公演を続けることができたことは、これまでのこぐま座、やまびこ座の実績と劇団の努力と評価されて良い。

・「あおぞらキッズシアター」やかもくま祭での屋外公演など、中島公園という立地条件を生かした公演スタイルは、今後益々重要になってくる。将来的に感染症や様々な災禍の中で、子どもたちへの文化芸術の発信提供を途切れさせないという努力や文化の力の意味を伝えていく方策を引き続き模索していく。

・指定管理者として文化事業の実施と中止の判断を、どのように考え、折り合いをつけていくのか、難しい決断を迫られたことは間違いない。しかし、子どもの文化体験機会を少しでも残していくために、文化の必要性をさらに発信していく努力が問われている。

・コロナ禍における文化発信ということが、今年度のテーマとなった。リモートを使った試みなど、新たな視点からの事業展開が行われたことは発見でもあり、今後には活かされていくと感じる。

利用状況実績

観劇者数	無料	1,049 人
	招待	134 人
	有料	1,795 人
	合計 (a)	2,978 人
出演者数(含むリハーサル) (b)		993 人
研修・見学者等の数 (c)		6,374 人
総数 (a+b+c)		10,345 人
上演回数		104 回
上演日数		75 日
仕込み・リハーサル・研修日数		104 日
上演1回あたりの観客数		28.6 人

利用人数 (前年度 31,517人・前年比32.8%)

※コロナウイルス感染拡大防止4/1～5/31臨時休館及び入場制限(定員の半数)

イ 事業実績 別紙業報告書参照

・コロナ禍の状況下において、目標数値に達せなかったことは致し方がない。それよりも感染対策を徹底し、市民や劇団の方々にも理解や協力をいただけたことが重要であった。また、国の補助金を活用し、感染防止のための環境整備を行えたことも有効であった。

(2)子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

・今年度は、コロナ禍において劇団の活動休止や自粛などの判断が迫られる事態となった。活動場所や公演機会の激減、劇団を存続させていくためのモチベーションの問題など、様々な課題が浮上した。こぐま座、やまびこ座としても、劇団の現状を知るために、急遽アンケート調査を実施。コロナ禍における劇団の実状把握に務めた。その結果を基に、休館再開直後に実施した劇場側が主導しての「がんばフェス」の企画、また、11月、12月に実施した「おでかけ人形劇公演」など、劇団への公演依頼や継続した活動機会の提供、さらには地元舞台スタッフの活用など、劇団等への支援という文化施設の根幹の役割を再認識できた。

・観劇者側と劇団側の育成支援は、劇場の根幹であることを、このコロナ禍で改めて感じた。この両輪を繋ぐためにも、こぐま座、やまびこ座という文化施設が常に前を覗いていく先見性の重要性をスタッフ全員で共有できたことは大きい。

・全国の児童文化施設の調査として、愛知県の4施設を職員3名で視察し、劇場運営の情報収集を行った。

(3)劇団育成支援に関する業務

・劇団支援策として「札幌市子ども人形劇場こぐま座支援事業」を実施。各劇団の中島児童会館占用利用について、使用料の一部を負担。※申請件数12件  
 ・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケートを実施。利用者(劇団)側からの様々な要望を聞くことができた。  
 ・市民ボランティア登録が19名。スタンプリーゆび人形制作(12名)、資料室MASOBOおはなしの会(7名)、イベント等の事業運営スタッフとして活躍した。  
 ・各劇団が劇場を通して交流する機会の提供  
 ①GWイベント(5月) ※中止  
 ②劇団応援メッセージ動画制作・配信(17劇団) 4～6月  
 ③開館記念祭「かもくま祭」(9月) ※7月から延期  
 ④札幌人形劇祭(11月) ※やまびこ座と協働

・劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。

・コロナ感染症の影響により各劇団の交流の機会が半減することとなったが、劇団と協働でコロナ禍の応援メッセージ動画を制作し、オンラインで公開するなどの工夫をして劇場と劇団の接点を作ることができた。

・市民ボランティアと協働で事業を実施し、市民の交流と自己実現の場とすることができた

(4)人形劇等に関する指導、相談業務

・人形劇の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日頃から人形劇について、指導、助言ができる体制づくりに努めた。公演時や稽古時等において、適宜アドバイスを行い、劇団側と協働してより良い作品づくりを目指している。コロナ禍によって講座事業が減少したが、子どもたちへの創造活動は継続することができた。

・平日頃からの市民対応が行える体制づくりの強化はもちろんのこと、今回のような感染症において新たな指導方法を模索する必要性を感じている。

(5)その他

①特別事業の実績  
 ・やまびこ座・こぐま座プロデュース人形劇・北海道の創作人形劇「奇跡の庭～じかん島のひみつ」のニセコ公演を9月に実施した。以前、こぐま座で観劇した主催者の方が、地元での公演を切望。実現する運びとなった。当日は土器づくりワークショップも実施し、100名近い方が参加、観劇していただいた。  
 ・冬の野外人形劇場、夏の特別招へい公演は中止とした。  
 ・コロナ禍においての新たな試みとして「あおぞらキッズシアター」「応援☆おでかけ人形劇公演&舞台体験ワークショップ」など、屋外や外部に出向いての公演機会の拡充など、劇場ありきの考えから、コロナ禍によって文化体験の機会が失われている子どもたちへの支援策として試行的に実施した。

・コロナ禍で特別事業が軒並み中止となったことは、非常に残念な結果であった。しかしながら、劇場を飛び出しての事業拡大は、このコロナ禍によって生じた子どもたちのストレスを解きほぐすための心のケアに役立ったと感じている。人形劇に興味を持ち、子どもたち自身がやってみたいと思えるような取り組みに今後つなげていくことが課題である。また、外部発信は、こぐま座、やまびこ座を知る機会にもつながり、劇場へ足を運んでもらう戦略の一つと期待する。

5. 施設の利用等に関する業務

(1)貸館業務計画

① 受付カウンター業務

- ・施設使用に当たっては、札幌市子ども劇場条例及び札幌市子ども劇場条例施行規則に基づき、申込受付を行う。施設利用者は、「札幌市子ども人形劇場使用承認申請書」に記入の上、提出。
- ・受付時間については、午前8時45分～午後5時15分。
- ・ホール使用に当たっては、3ヶ月前の1日から受付を行い、電話での仮申込も可とする。
- ・各劇団の中島児童会館夜間占用利用については、こぐま座の自主事業「札幌市子ども人形劇場こぐま座支援事業」として使用料の一部負担。利用申込については、中島児童会館と協議の上、申請手続きを定め、申請様式を作成して実施。
- ・利用台帳を作成し、利用の調整を随時行う。

・利用申込受付については、条例に基づき、適正に処理を行った。特に問題はなし。

・こぐま座支援事業については、事務フローを作成し、適正に処理を行った。

② 施設の案内及び説明

- ・公演時の観客者対応、劇団の施設使用時、日常の直接来館時の問い合わせ、電話対応等において、施設、公演等案内及び説明を行う。

・施設リーフレットを改訂した。

③ 備付物件の貸出と管理

- ・公演のリハーサル、準備、本番時において、劇団への備付物件の貸出を行う。また、使用後の確認及び点検を行う。

・常日頃より備品等を点検確認し、利用者の使用に支障が生じないようにした。

(2)使用承認等に関する業務

- ① 子ども人形劇場の使用申込の受付及び使用の承認、不承認
- ・施設使用承認に当たっては、札幌市子ども劇場条例及び札幌市子ども劇場条例施行規則に基づく。提出された「札幌市子ども人形劇場使用承認申請書」を精査の上、承認。その際に「札幌市子ども人形劇場使用承認書」を発行する。
  - ・不承認について該当事例なし。

・施設使用承認については、条例に基づき、適正に処理を行った。

② 施設使用に当たって、特別の設備を設け、又は特殊な物件を搬入しようとするときの当該行為の承認、不承認

- ・該当事例なし。

・該当事例なし。

③ 使用承認等の条件の変更、施設の使用の停止命令又は使用承認等の取り消し

- ・該当事例なし。

・該当事例なし。

④ 利用料金の徴収事務

- ・札幌市子ども劇場条例及び札幌市子ども劇場条例施行規則に基づき、劇場使用料の徴収事務を行う。使用料については、下表のとおり。

・劇場使用料の徴収事務については、条例に基づき、適正に処理を行った。

単 位		使 用 料
1回の公演につき	同一のプログラムによる上演が1回の場合	入場料等の総額の5パーセントに相当する額
	同一のプログラムによる上演が2回以上の場合	入場料等の総額の10パーセントに相当する額

・利用料金収入については、昨年度比から見てもコロナ禍の影響を大きく受けたことは間違いない。しかし、コロナ禍のために劇場主催事業を増やしたことによる減収も一因として挙げられる。

※令和2年度利用料金収入総額…60,290円(前年度比19.4%)

⑤ 利用料金の減額若しくは免除又は還付に関する事務

- ・該当事例なし。

・該当事例なし。

⑥ 入場の制限その他施設の秩序維持に関する事務

- ・該当事例なし。

・該当事例なし。

6. 管理業務に付随する業務		
(1) 広報業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページのアクセス数は38,913件で、前年度比(57,787件)67%という結果になった。また、新規アクセスは65%、再アクセスは35%であった。ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページ作成を目指した。</li> <li>・公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram)によるリアルタイムでの情報発信を行った。</li> <li>・定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)をやまびこ座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校4校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。</li> <li>・札幌市イベント情報に毎月公演・事業情報を掲載した。</li> <li>・公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。</li> <li>・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」(市内全小学生配布)に、公演情報を毎月掲載した(年6回各10万部発行)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行っている。今年度はコロナウイルス感染症による休館やコロナ禍で足が遠のいてしまい集客に苦戦した印象である。ホームページのアクセス数にも影響が見え、対策を講じていることの周知も広報が必要と考えている。また、よりわかり易く親しみを持ってもらえるよう、ホームページの一部リニューアルを年度末に行った。</li> <li>・広報をテーマにしたプロジェクトのワーキンググループを組織し、より多くの市民に来館いただける方策を検討した。公式LINEの開設を行い、今後の本格運用で集客に繋げていく</li> </ul>
(2) 施設ホームページのウェブアクセシビリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市公式ホームページウェブアクセシビリティの方針に準じて、アクセシビリティの維持・向上に努め、HPの更新を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを作成した。</li> </ul>
(3) 引継ぎ業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回から継続指定のため、引継業務なし</li> </ul>	
7. 札幌市内の企業等の活用について		
(1) 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三者に対する業務委託、物品の調達等を行うにあたり、札幌市内の企業等を積極的に活用している。</li> </ul>	
8. その他		
(1) 自主事業の実施	<p>《物品販売事業》</p> <p>市民サービスの一環として、マスコット人形や人形劇キット、手作りおもちゃ、オリジナルグッズ等の販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助、リピーターの確保等につなげ、公演の活性化を図る。</p> <p>実施期間: 令和2年4月1日～令和3年3月31日</p> <p>販売商品:</p> <p>①ハンドパペット 金額: 150円～700円</p> <p>②オリジナルグッズ(こぐまちゃんラバーストラップ、ピンバッジ等) 金額: 50円～2,000円</p> <p>【販売実績】</p> <p>①ハンドパペット: 販売個数 23個 売上額 12,900円</p> <p>②オリジナルグッズ: 販売個数 200個 売上額 42,650円</p> <p>合計: 販売個数 223 売上額 55,550円</p> <p>※コロナウイルス感染予防のため4/1～5/31まで臨時休館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民サービスの一環として物品販売を実施した。来場される市民の方々に喜ばれている一方で、開始7年目となり商品の固定化により、売り上げが減少している。次年度は、新たな商品開発を行い、観劇の記念に残る品物と親しみ易い劇場に繋がるよう販売を行う。</li> </ul>
(2) 改修工事・大規模修繕について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・舞台設備改修(札幌市発注)</li> <li>・舞台音響及び照明設備の改修工事実施に伴い、臨時休館対応とした。(11月16日～12月27日)</li> </ul>	
(3) 映画等の撮影の申し出を受けた場合の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当事例なし。</li> </ul>	



## 2 アンケートのまとめ

1. 実施目的	施設利用者に対してアンケートを実施し、利用者の満足度や市民からの要望、意見を集約していくことで、業務を振り返り、業務の改善に反映させるよう努める。																																																																																													
2. 実施内容及び実施方法	<p>観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、実施。</p> <p>① 観客用アンケート 各公演時において、来館した観劇者に対しアンケートを配布。公演の周知方法、これまでの来館数等の回答者についての設問や劇場の設備について、職員の対応等の設問、また具体的なお芝居の感想に対し、回答していただいた。記名方式(無記入可)。</p> <p>② 利用者(劇団)アンケート 劇場を利用する劇団に対し、アンケートを実施。普段、劇団の活動で劇場を利用するに当たり、劇場の使いやすさや職員の対応といったソフト面とハード面の両面について回答していただいた。実際にお芝居を創っていく上での環境、職員の支援体制、劇場の設備について、職員の対応等に対する設問。記名方式(劇団名、氏名 無記入可)。</p> <p>③ 事業参加者アンケート 事業参加者(受講者)に対し、各事業ごとの終了後にアンケートを実施。事業プログラム内容や講師、担当職員の対応、施設の使いやすさ等について回答していただいた。記名方式(無記入可)。</p>																																																																																													
3. アンケート結果	<table border="1" data-bbox="400 645 1493 1216"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">観客用アンケート</th> <th rowspan="2">利用者(劇団)アンケート</th> <th colspan="5">事業参加者アンケート</th> </tr> <tr> <th>こども人形劇団</th> <th>パペットユース</th> <th>こども文化セミナー</th> <th>こどものまなび塾</th> <th>指人形ボランティア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 実施期間</td> <td>7/1～3/31</td> <td>7/11～3/31</td> <td>8/19～3/7</td> <td>8/18～12/27</td> <td>3/6</td> <td>I期～III期</td> <td>7/1～3/31</td> </tr> <tr> <td>② アンケート回収枚数(枚)</td> <td>633</td> <td>24</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>84</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>③ 職員の対応、説明(点)</td> <td>4.7</td> <td>4.9</td> <td>4.5</td> <td>5.0</td> <td>4.4</td> <td>4.7</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>④ 劇場の設備(点)</td> <td>4.5</td> <td>4.5</td> <td>4.0</td> <td>5.0</td> <td>4.0</td> <td>4.6</td> <td>4.0</td> </tr> <tr> <td>⑤ 観劇のマナー(点)</td> <td>4.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑥ 芝居づくりの上での施設 の環境整備(点)</td> <td></td> <td>4.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑦ 芝居づくりの上での劇場 のサポート(点)</td> <td></td> <td>4.7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑧ 利用申込、手続きの仕方 (点)</td> <td></td> <td>4.6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑨ 事業プログラム内容(点)</td> <td></td> <td></td> <td>4.7</td> <td>5.0</td> <td>4.6</td> <td>4.9</td> <td>4.5</td> </tr> <tr> <td>⑩ 講師について(点)</td> <td></td> <td></td> <td>4.5</td> <td>5.0</td> <td>4.8</td> <td>4.9</td> <td>4.7</td> </tr> </tbody> </table>		観客用アンケート	利用者(劇団)アンケート	事業参加者アンケート					こども人形劇団	パペットユース	こども文化セミナー	こどものまなび塾	指人形ボランティア	① 実施期間	7/1～3/31	7/11～3/31	8/19～3/7	8/18～12/27	3/6	I期～III期	7/1～3/31	② アンケート回収枚数(枚)	633	24	10	14	18	84	6	③ 職員の対応、説明(点)	4.7	4.9	4.5	5.0	4.4	4.7	4.5	④ 劇場の設備(点)	4.5	4.5	4.0	5.0	4.0	4.6	4.0	⑤ 観劇のマナー(点)	4.6							⑥ 芝居づくりの上での施設 の環境整備(点)		4.7						⑦ 芝居づくりの上での劇場 のサポート(点)		4.7						⑧ 利用申込、手続きの仕方 (点)		4.6						⑨ 事業プログラム内容(点)			4.7	5.0	4.6	4.9	4.5	⑩ 講師について(点)			4.5	5.0	4.8	4.9	4.7
	観客用アンケート				利用者(劇団)アンケート	事業参加者アンケート																																																																																								
		こども人形劇団	パペットユース	こども文化セミナー		こどものまなび塾	指人形ボランティア																																																																																							
① 実施期間	7/1～3/31	7/11～3/31	8/19～3/7	8/18～12/27	3/6	I期～III期	7/1～3/31																																																																																							
② アンケート回収枚数(枚)	633	24	10	14	18	84	6																																																																																							
③ 職員の対応、説明(点)	4.7	4.9	4.5	5.0	4.4	4.7	4.5																																																																																							
④ 劇場の設備(点)	4.5	4.5	4.0	5.0	4.0	4.6	4.0																																																																																							
⑤ 観劇のマナー(点)	4.6																																																																																													
⑥ 芝居づくりの上での施設 の環境整備(点)		4.7																																																																																												
⑦ 芝居づくりの上での劇場 のサポート(点)		4.7																																																																																												
⑧ 利用申込、手続きの仕方 (点)		4.6																																																																																												
⑨ 事業プログラム内容(点)			4.7	5.0	4.6	4.9	4.5																																																																																							
⑩ 講師について(点)			4.5	5.0	4.8	4.9	4.7																																																																																							
4. 評価及び考察	<p>①観客用アンケート ・劇を見る環境について、平均4.5以上と高評価であったが、コロナウィルス感染対策のため、換気を行っていることもあり「寒かった」との意見もあったため、感染対策を取りつつ、観客に対して適切な温度調整を行って行きたい。 ・職員の対応・劇場の設備面では、「コロナ対策をしっかりとっていて良い」「座席の間隔取られている」「観劇するにあたり不安は感じなかった」など、温かいご意見をいただいた。</p> <p>②利用者(劇団)アンケート ・回収24枚(回収率75%:劇団32劇団中24劇団) ・支援体制について(施設の環境整備、劇場のサポート)は、ともに「とても良い」「良い」の回答を多くいただき、自分たちも学べる場を提供してもらっていると捉えていただいている。 ・施設サービスについて(利用のしやすさ、職員の対応)についても、ほぼ満足していただいている。利用申込や手続きについて、次年度よりシステム運用が開始となるため、よりサービスの充実を意識していく。また、いただいた意見・要望は今後の施設運営向上に向け参考にしていく。</p> <p>③事業別参加者アンケート ・主催事業より、5事業についてアンケートを実施し、138名より回答。 ・事業内容については、どの事業についても「とても良い」「良い」の回答を多くいただき、「相談しやすく助かった」「共に考え、適切なアドバイスをいただいた」など高評価が得られた。舞台機器の不具合による設備への指摘も見られるため、可能な限り改善するとともに、今後も利用者の満足を得られるよう各事業の充実を図る。</p>																																																																																													
5. 全体を通して	<p>・観客アンケートによると、資料室MA・SO・BOの利用が好評であった。さらに、観客数につなげる工夫をし、市民サービスの充実を目指し楽しめる施設づくりを目指していく。</p> <p>・公演情報について、全体的に様々な方法で発信している広報が万度に届いていない現実も明るみとなっている。劇場の存在を知ってもらうため、時代に即した方法を検証していく。</p> <p>・利用者の総合満足度が高く、丁寧にかかわることが、文化の後押しとなっていることを実感した。講座等での支援とともに、劇団の自主公演の支援、また作品創造に関した支援に努めていく。</p> <p>・幼児親子の来客が多くなって来ているため、年齢層に合わせた作品を劇団の方々と一緒に作り、幅広い年齢層の方に楽しんでいただけるよう努めていく。</p>																																																																																													

### 3 令和2年度管理業務総括

1. 総合評価	<p>令和2年度は未曾有の感染症により、当初計画していた事業は軒並み中止、延期、内容の変更を余儀なくされ、期中での事業の再考を迫られる事態となった。特に文化芸術が軽視される実態を目の当たりにし、不要不急と言われる中で、どのように文化芸術の意義を見出し、折り合いをつけて行くべきか問われた一年でもあった。しかしながら、自粛期間が長引くほど、心の拠り所となるはずの文化体験の機会が失われ、子どもたちのストレスや発散の場がなくなり、ギスギスした攻撃的な社会が待っていたことも事実である。このコロナ禍を単なる災禍で終わらせないためにも、こぐま座、やまびこ座の役割を打ち出し、劇団とともに感染対策を施しながらこの一年、試行錯誤の上、文化発信が行えたことに大きな意味を持つ。</p> <p>① 緊急事態宣言による休館措置。さらに開館後も国のガイドラインを基に感染対策の徹底を図るための環境整備を行い、ようやく7月からの屋外公演を皮切りに再開できる運びとなった。収容人数は、座席数の50%の45名限定とし、完全予約制、マスク、検温、消毒、観劇中の換気、ソーシャルディスタンスの確保といった非常に窮屈な対応を取らざるを得ない状況であった。しかしながら、観客の皆様のご理解や劇団の協力により大きな混乱もなく、安心、安全の中で公演を継続できたことは評価できる。</p> <p>② 公演事業としては、入場制限の中で経費の採算が取れず、上演を諦めた劇団もあったが、市内またはその近郊のアマチュア人形劇団を中心に毎週の公演をほぼ継続できたことは特筆に値する。地元人形劇団の底力とこれまでの関係性を改めて確認できる機会となった。数値実績については、全てにおいて目標には届かなかった。特に入場者数制限の影響は大きく、観劇者総数2,978人(R1実績:9,925人)と前年度比約7割減となった。1回の平均観客数も28.6人(R1実績:51.7人)と大幅に落ち込んだが、逆にゆったりと人形劇を楽しむ環境が生まれたことも事実である。この実績を入場料金の設定や経営面と合わせ、どのように考えていくか今後検証が必要である。</p> <p>③ 今年度の収支状況としては、コロナ禍によって道外、海外等の往来が難しく、特別公演等の大規模事業が中止となる中で、大幅な収益減となった。しかしながら、プロデュース人形劇のニセコ公演、地元専門劇団の特別公演など、改めて足元を見直す良い機会ともなった。将来的にこぐま座、やまびこ座が持つ文化スキルをさらに拡充し、プロデュース人形劇の巡回公演、人形劇指導等、安定的な収益につながる事業展開が必要であり、地域ニーズをいち早く捉える知見を得ていくことが喫緊の課題である。</p> <p>④ 人材育成の根幹である「初心者のための人形劇講座」は中止となったが、子どもたちの表現活動の場である「こぐま座こども人形劇団」「パペットユーススクール」は、ともにこの状況下でも活動を実施。特に新作人形劇を創造できたことは、非常に価値あるものであり、観る方々に勇気を与えることができた。また、中島児童会館との一体連携として「かもくま祭」「MASOBO事業」が規模は縮小されたものの継続実施できたこと、特に「あそびのまなび塾」からコロナ禍においての我々大人自身の心構えを気づかせてくれたことは、非常に有意義な場となった。</p>
2. 基本方針及び来年度以降の重点取組事項	<p>基本方針</p> <p>『未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり』</p> <p>子どもたちのための専門劇場「やまびこ座」「こぐま座」は、子ども文化の鑑賞、発信、創造拠点として、子どもたちをはじめ、市民の方々の可能性を育む場所「地域の文化拠点」として、地域に愛され人形劇や児童劇など、様々な事業を行っている。特に令和3年度は、こぐま座が45周年を迎える節目の年でもあるため、感染症を乗り越え、子どもたちが文化芸術にふれる機会を継続的に確保するため、両劇場、中島児童会館、そして劇団、アーティスト等と協働しながら持続可能な劇場づくりを目指す。</p> <p>(1) 子どもたちへ芸術の鑑賞及び体験機会の拡充</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、子どもたちの日常生活において観劇や文化芸術に接する体験の機会が乏しくなっている現状から、感染防止に十分留意したうえでその機会の拡充を図ることで、元気と心の豊かさを取り戻し、明るい未来を描くことができる支援を行う。</p> <p>(2) 子ども文化の新たな可能性</p> <p>コロナ禍により模索してきた野外劇場を定番化し、雪の舞台での野外人形劇公演や、北海道のアイヌ民話を題材としたサイト・スペシフィック・パフォーマンス(移動体験型人形劇)を、やまびこ座・こぐま座がプロデュースして制作、札幌スタイルの文化芸術のスタンダード化を目指す。その制作にあたっては、育成する劇団や専門アーティスト、関係機関と連携した取り組みによって、先駆的な作品を創造し、地域の文化芸術の普及に繋げる。また、観光や地域の振興を視野に入れた新しい価値の創造につなげる。</p> <p>(3) 豊かな子ども文化の街・さっぽろをデザインする</p> <p>やまびこ座、こぐま座の年間を通した活発な公演事業を目指すほか、このコロナ禍で見えてきた課題を克服するため、あらゆる劇場空間を演出していく試みを積極的に展開する。将来における劇場の在り方を模索すると同時に、市民が身近に文化に触れることができる豊かな街づくりをデザインする。</p>